

## 島の保育所（園）における感染予防対策に関する健康教育の成果

研究期間 平成 29 年度～平成 30 年度

研究代表者名 中村 鈴子

共同研究者名 土橋 ルミ子

### I. はじめに

日本における家庭、学校、施設、病院においての手指の清潔を保つ方法は、石鹸を使用して流水の下で手を洗う方法が推奨されている。抵抗力の少ない子どもにとって感染を予防するためには、手有野方法を確実に身につけさせることが重要である。特に幼児は、成長・達段階の途上にあり、健康な日常生活動作を身につける時期でもある。健康な日常生活動作を身につけるためには、知識の習得、態度、行動の強化・変容が必要になる。手洗いの方法を身につけることは、幼児期の手洗いの体験を通して将来の自己の健康に関する健康増進に必要な対処能力（ライフスキル 9 を身につける教育となりうる。しかし、4～5 歳児を対象とした効果的な手洗い指導法の実践報告はあるが、年間を通して幼児に教育した研究の報告はない。手洗い指導を継続して実施多 A 大学の研究結果を生かして C 県の島の保育所における健康教育の確立を目指したい。

### II. 研究目的

島の保育所（園）における幼児を対象に感染予防対策に関する健康教育を実施し、島における幼児の健康教育の方法を確立する。

### III. 研究の意義

幼児期は、成長・発達段階で生活習慣を確立する土台となる時期でもあり、健康の保持増進に必要な対処能力（ライフスキル）を合わせて指導することにより、島の保育所の幼児が体験を通して日常生活動作（手洗い方法）を身につけていくことが期待される。さらに幼児の健康教育の推進により、保護者の感染への予防教育、また、保護者が安心して就業でき、長崎県の産業・経済への効果が期待できる。

### IV. 研究方法

#### 1. 研究デザイン

量的研究

#### 2. 研究対象

- (1) 対馬市、壱岐市、五島市の 2 保育所（計 6 か所）保育所の幼児 120 名
- (2) 保育所（6 か所）の幼児の保護者

#### 3. 研究期間

平成 29 年 9 月～平成 30 年 3 月

調査期間：平成 29 年 10 月～平成 29 年 12 月 各保育所 2 回調査

4. データ収集方法

- (1) 6 か所の保育所の幼児への健康教育の 2 回の結果（幼児の手の図：手の甲、手のひら）
- (2) 保護者への質問紙調査（無記名自記式留置法）2 回
  - ① 健康教育前
  - ② 2 回の幼児への健康教育終了後

5. データ分析方法

尚、様式 2 号その 1 に記載したように、研究者の左手手根骨骨折、左膝蓋骨骨折のために、分析できない状況である。

V. 研究成果

3 月 13 日から職場復帰して、昨日まで保護者の調査用紙を入力した。今後に分析予定である。